

富山県鉱工業生産の動き

～平成18年(2006年)12月分・第 四半期分～

総合指数

平成12年(2000年)=100、季節調整済

	18年12月	前月比(%)	前年同月比(%)
生産指数	111.0	4.2	1.1
在庫指数	98.7	0.9	0.4

1 生産指数(季節調整済指数)は111.0と前月に比べ4.2%上昇し、2ヵ月ぶりに上昇した(図表)。

これは13業種中、電気機械工業、化学工業など9業種が上昇し、一般機械工業、輸送機械工業など4業種が低下したことによる。

業種別にみると、電気機械工業は集積回路などの増加により前月比11.1%上昇の134.1となり、化学工業は医薬品など増加により前月比5.6%上昇の117.5となった。他方、一般機械工業がロボット・産業機械などの減少により前月比3.9%の低下で152.1となり、輸送機械工業は自動車ボデーなどの減少により前月比16.0%の低下で96.1となった。

この結果、13業種中、平成12年基準の指数100を上回っている業種は、一般機械工業(152.1)、電気機械工業(134.1)、非鉄金属工業(126.7)、化学工業(117.5)、鉄鋼業(114.5)、プラスチック製品工業(103.8)、金属製品工業(101.1)の7業種となった。

なお、前年同月比(原指数)は1.1%の上昇となり、2ヵ月ぶりに前年を上回った。

2 在庫指数(季節調整済指数)は98.7と前月に比べ0.9%上昇し、4ヵ月ぶりに上昇した(図表)。

これは13業種中、電気機械工業、その他の工業など11業種が低下したものの、影響の大きい化学工業、金属製品工業の2業種が上昇したことによる。

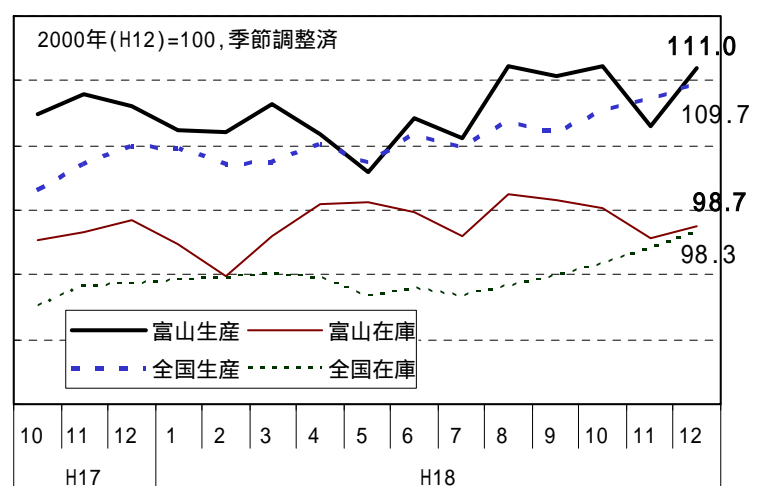
なお、前年同月比(原指数)は0.4%の低下となり、2ヵ月連続で前年を下回った。

指数の動き

平成12年(2000年)=100、季節調整済指数

	富山県		全国	
	生産指数	在庫指数	生産指数	在庫指数
平成17年 10月	107.5	97.7	101.6	92.6
11月	109.0	98.3	103.6	94.2
12月	108.1	99.2	104.9	94.3
平成18年 1月	106.2	97.4	104.8	94.6
2月	106.1	94.9	103.5	94.8
3月	108.2	98.0	103.7	95.0
4月	105.8	100.4	105.1	94.8
5月	102.9	100.6	103.7	93.4
6月	107.1	99.9	105.9	94.0
7月	105.5	98.0	104.9	93.3
8月	111.2	101.2	106.8	94.1
9月	110.4	100.8	106.1	94.9
10月	111.2	100.1	107.8	95.9
11月	106.5	97.8	108.7	97.1
12月	111.0	98.7	109.7	98.3

図 生産・在庫指数の推移



・問い合わせ先：富山県経営管理部統計調査課 TEL 076-444-3193(直通)

・次回公表予定日：平成19年3月26日(月)

・「富山県鉱工業生産の動き」は、HP「とやま統計ワールド」でご覧になれます。

<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/>

平成18年12月分 業種別の主な動向

主な業種は寄与率（全体に与える影響）の大きい順に掲載
ウェイトは10000分比で算出

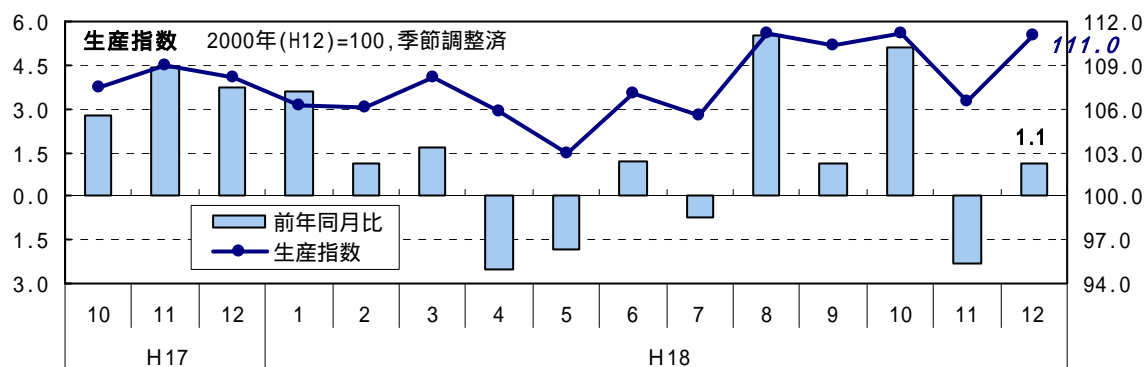
<生産> (指数 111.0 (前月比+4.2%))

上昇した業種 (9業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比 (%)	寄与した主な品目	前年同月比 (%)
電気機械工業	1631.2	134.1	11.1	集積回路など	6.3
化学工業	1946.3	117.5	5.6	医薬品など	1.3
パルプ・紙・紙加工品工業	526.5	97.8	10.3	紙など	0.4

低下した業種 (4業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比 (%)	寄与した主な品目	前年同月比 (%)
一般機械工業	819.7	152.1	3.9	ロボット・産業機械など	7.8
輸送機械工業	142.9	96.1	16.0	自動車ボデーなど	22.7
その他の工業	492.4	68.4	1.4	その他製品工業など	5.7



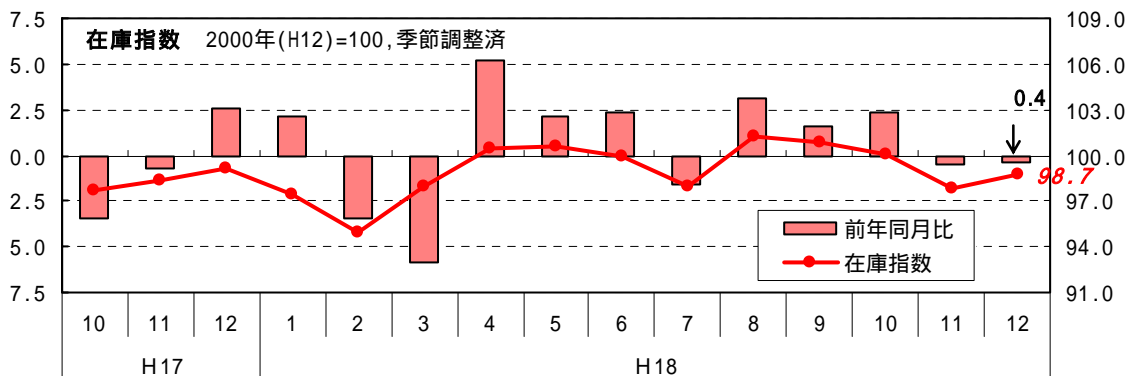
<在庫> (指数 98.7 (前月比+0.9%))

上昇した業種 (2業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比 (%)	寄与した主な品目	前年同月比 (%)
化学工業	2329.6	118.5	3.7	医薬品など	8.8
金属製品工業	2190.9	76.3	0.4	金属製建具など	0.9

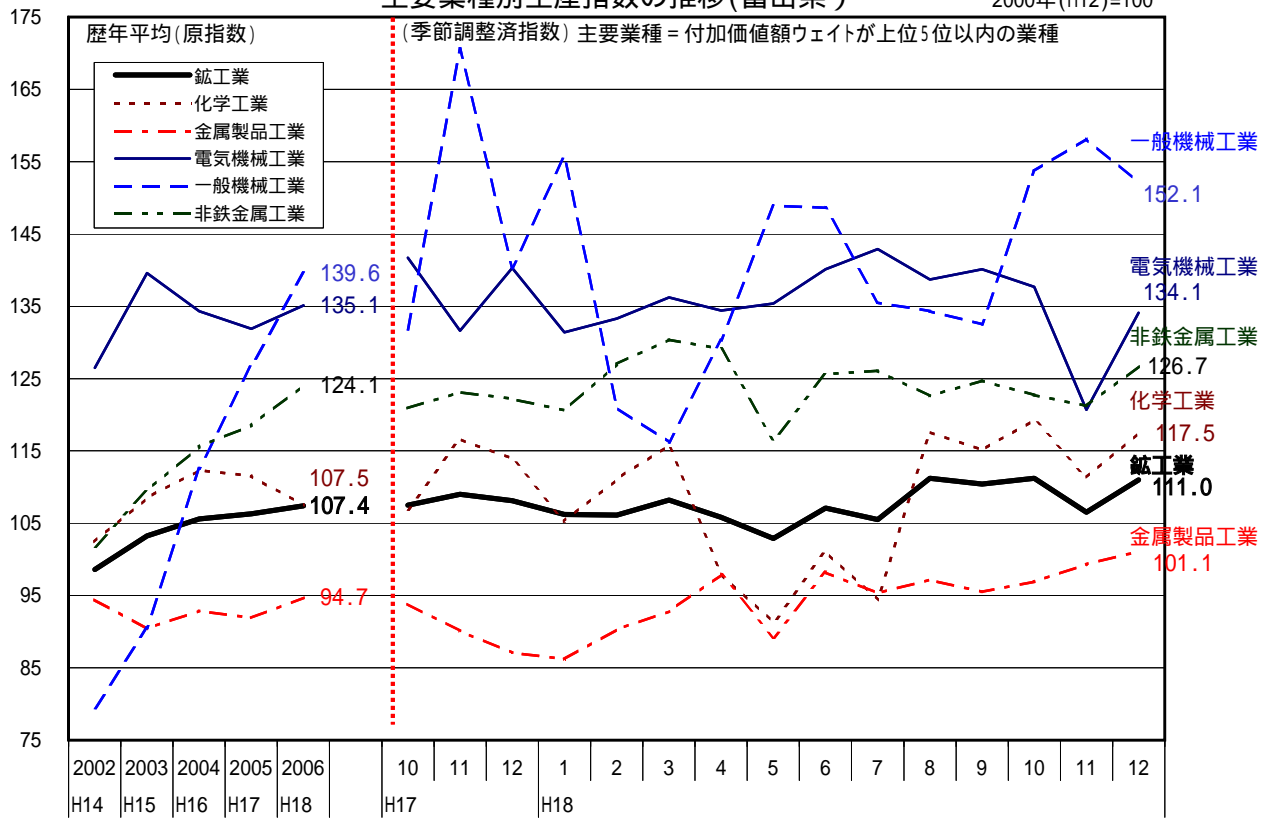
低下した業種 (11業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比 (%)	寄与した主な品目	前年同月比 (%)
電気機械工業	270.1	122.0	26.8	回転・静止電気機器など	40.6
その他の工業	450.2	59.5	14.0	木材・木製品工業など	41.3
食料品工業	668.0	74.0	5.2	飲料など	5.3



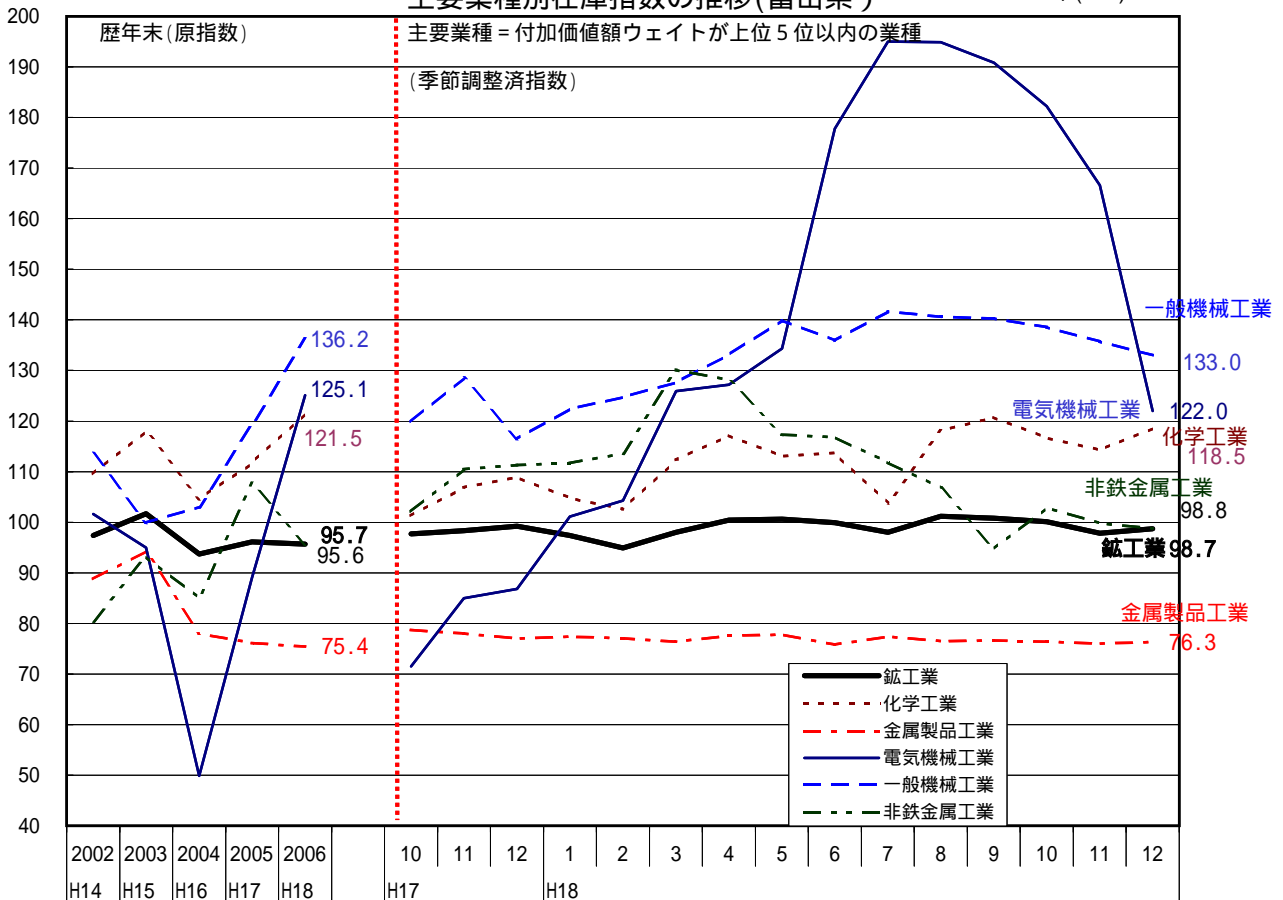
主要業種別生産指数の推移(富山県)

2000年(H12)=100



主要業種別在庫指数の推移(富山県)

2000年(H12)=100



～ 平成18年(2006年)第 四半期分 ～

総合指数

平成12年(2000年) = 100、季節調整済

	18年 期	前期(末)比(%)	前年同期(末)比(%)
生産指数	109.6	0.6	1.2
在庫指数	98.7	2.1	0.4

- 1 生産指数(季節調整済指数)は109.6と前期に比べ0.6%上昇し、2期連続で上昇した(図表)。これは13業種中、一般機械工業、化学工業など7業種が上昇し、電気機械工業、プラスチック製品工業など6業種が低下したことによる。

業種別に見ると、一般機械工業はロボット・産業機械などの増加により前期比15.4%上昇の154.7となり、化学工業は医薬品などの増加により前期比6.4%上昇の116.0なった。他方、電気機械工業は集積回路などの減少により前期比7.0%の低下で130.8となり、プラスチック製品工業が機械器具部品の減少により前期比1.8%の低下で106.1となった。

なお、前年同期比(原指数)は1.2%上昇し、2期連続で前年を上回った。
- 2 在庫指数(季節調整済指数)は98.7と前期末に比べ2.1%低下し3期ぶりに低下した(図表)。これは13業種中、電気機械工業、その他の工業など11業種が低下し、非鉄金属工業、繊維工業の2業種が上昇したことによる。

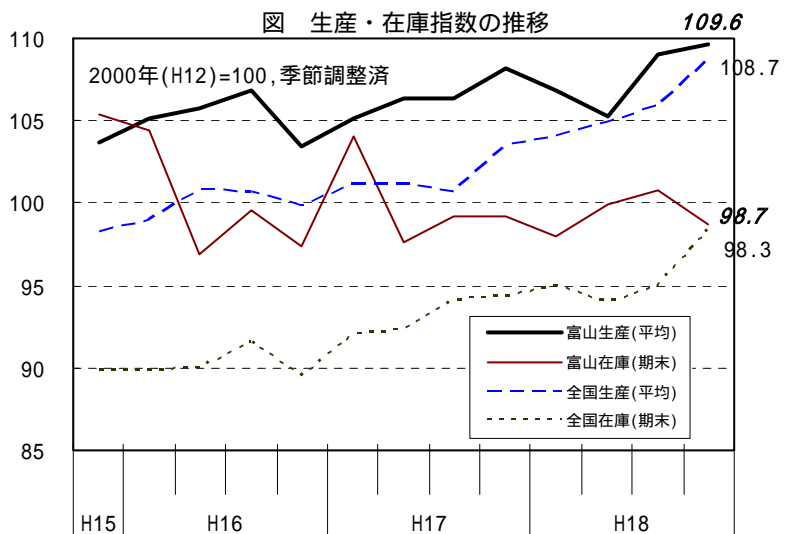
なお、前年同期末比(原指数)は0.4%低下し、3期ぶりに前年を下回った。

上記の生産と在庫の推移は、「在庫循環図(P7,8)」を参照

指数の動き

平成12年(2000年)=100、季節調整済指数

	富 山 県		全 国	
	生産指数	在庫指数	生産指数	在庫指数
平成15年 期	103.7	105.4	98.2	89.8
平成16年 期	105.2	104.4	98.9	89.9
期	105.8	96.9	100.8	90.0
期	106.9	99.6	100.7	91.5
平成17年 期	103.5	97.4	99.8	89.5
期	105.1	104.1	101.2	92.0
期	106.4	97.6	101.1	92.3
期	106.4	99.2	100.6	94.1
平成18年 期	108.2	99.2	103.4	94.3
期	106.8	98.0	104.0	95.0
期	105.3	99.9	104.9	94.0
期	109.0	100.8	105.9	94.9
期	109.6	98.7	108.7	98.3



平成18年第 四半期分 業種別の主な動向

業種は寄与率（全体に与える影響）の大きい順に掲載
ウェイトは10000分比で算出

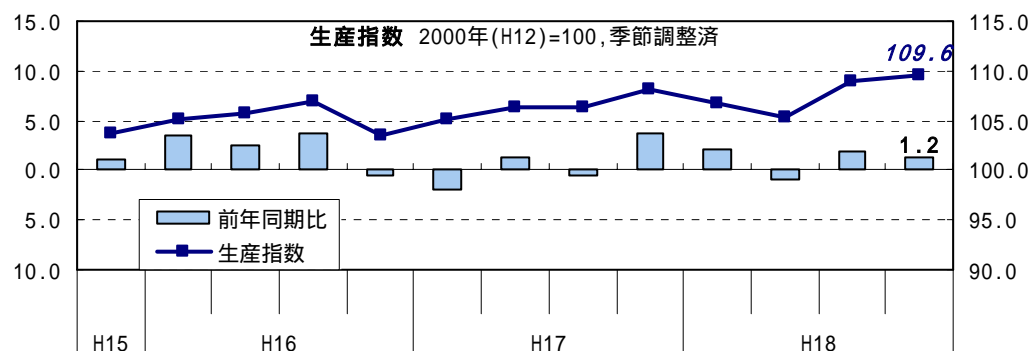
<生産> (指数109.6 (前期比+0.6%))

上昇した業種(7業種)

主な業種	ウェイト	指数	前期比 (%)	寄与した主な品目	前年同期比 (%)
一般機械工業	819.7	154.7	15.4	ロボット・産業機械など	4.7
化学工業	1946.3	116.0	6.4	医薬品など	3.0
金属製品工業	1911.2	99.1	3.2	その他金属製品など	9.6

低下した業種(6業種)

主な業種	ウェイト	指数	前期比 (%)	寄与した主な品目	前年同期比 (%)
電気機械工業	1631.2	130.8	7.0	集積回路など	5.0
プラスチック製品工業	520.3	106.1	1.8	機械器具部品など	1.4
その他の工業	492.4	68.4	2.6	その他製品工業など	3.0



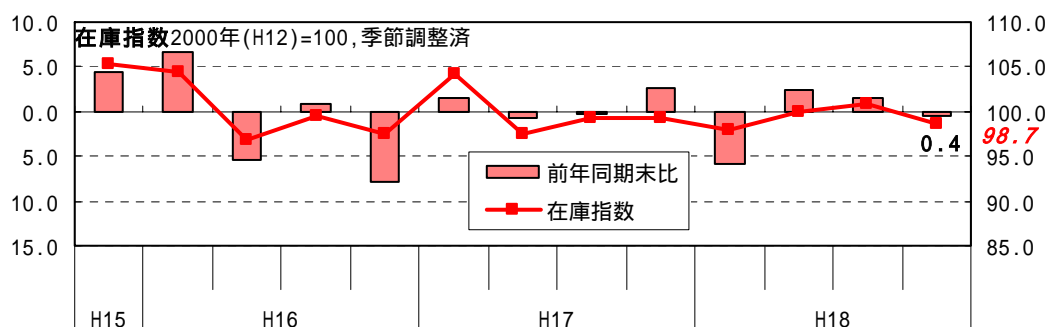
<在庫> (指数 98.7 (前期末比 2.1%))

低下した業種(11業種)

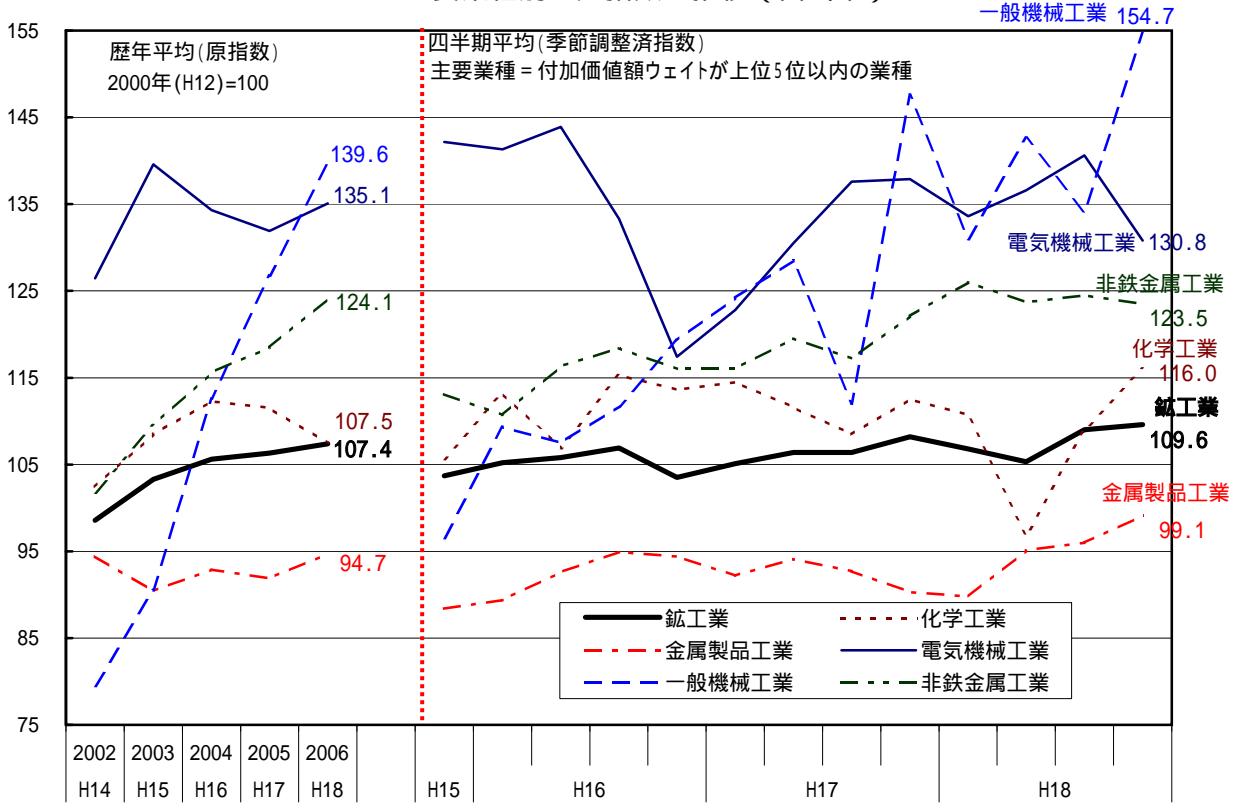
主な業種	ウェイト	指数	前期末比 (%)	寄与した主な品目	前年同期末比 (%)
電気機械工業	270.1	122.0	36.1	回転・静止電気機器など	40.6
その他の工業	450.2	59.5	22.8	木材・木製品工業など	41.3
化学工業	2329.6	118.5	1.8	医薬品原末・原液など	8.8

上昇した業種(2業種)

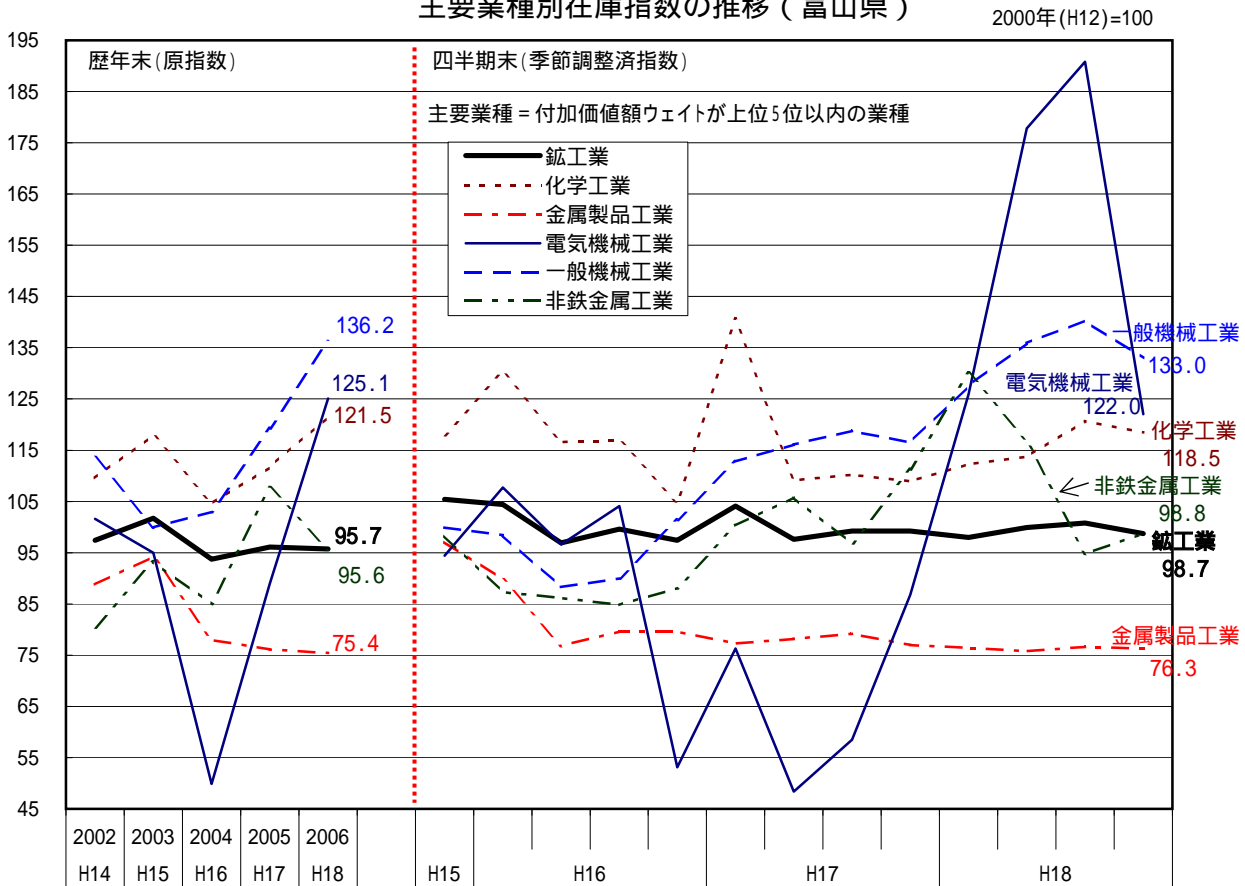
主な業種	ウェイト	指数	前期末比 (%)	寄与した主な品目	前年同期末比 (%)
非鉄金属工業	580.4	98.8	4.3	アルミニウム二次精錬など	11.2
繊維工業	582.2	76.8	2.3	化繊・紡績など	15.8



主要業種別生産指数の推移（富山県）



主要業種別在庫指数の推移（富山県）



<在庫循環の最近の傾向> (次ページ参照)

富山県の在庫循環図をみると、H12年はおおむね「在庫積み増し局面」に位置し、H13年 期～ 期にはおおむね「在庫積み上がり局面」に推移していた。その後、H13年 期～H14年 期の「在庫調整局面」、「在庫減少局面」を経て、H14年 期～H15年 期には「在庫積み増し局面」に、H15年 期～H16年 期は「在庫積み上がり局面」に入った。しかし、H16年 期～ 期には再び「在庫積み増し局面」へ、 期では「在庫減少局面」へ、H17年 期では「在庫調整局面」へと戻り、 期の「在庫減少局面」と「在庫積み増し局面」の境目付近を経て、 期には、「在庫調整局面」、 期では「在庫積み増し局面」へ移動した。H18年 期は「在庫減少局面」へ、 期は「在庫積み上がり局面」へ、 期は「在庫積み増し局面」へ移動した。**今回のH18年 期**は生産が前年同期比1.2%の増、在庫が前年同期末比0.4%の減となり、 期に引き続き**「在庫積み増し局面」**に位置している。

また、**全国の在庫循環図**をみると、H11年からH15年 期は、おおむね中心点(グラフ推移の大まかな中心)が、生産及び在庫の前年同期比のゼロの位置より左下方にシフトした循環を描いており、H15年 期～H16年 期にかけては「在庫積み増し局面」に、H17年 期～ 期は「在庫積み上がり局面」に位置していた。H18年 期は「在庫積み上がり局面」と「在庫積み増し局面」の境目に、 期、 期は「在庫積み増し局面」に位置していた。今回の**H18年 期**では、生産が前年同期比5.7%増、在庫が前年同期末比4.3%増となり、 期に引き続き**「在庫積み増し局面」**に位置している。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環(Inventory Cycle)と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図(生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面)として示すことができ、「在庫積み増し局面」「在庫積み上がり局面」「在庫調整局面」「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある(傾向変動を除去した場合)。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月(3～4年)の循環を示すことが多く、「キッチンの波」(キッチン(Kitchen)が分析したもの)とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、以下のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す(図 b1,b2)。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる(意図せざる在庫投資、図 c1,c2)。

「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる(図 d1,d2)。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する(意図せざる在庫減局面、図 a1,a2)。

(1)生産指数

2000年=100.0

Table with columns for manufacturing sectors (Iron and Steel, Non-ferrous Metals, etc.), total industry index, and specific sub-indices. Includes rows for monthly, quarterly, and annual averages from Heisei 14 to 18, and comparison with the previous year/month.

鋳工業指数利用者のために（利用上の注意）

1 作成目的

鋳工業の生産及び在庫状況を数量的に調査し、富山県における鋳工業の動向を総合的に把握することを目的とする。**鋳工業指数とは、一定地域内における月々の鋳工業生産量及び在庫量を、ある一定時期を基準にして指数化したものである。**

2 基準時及びウェイト算定年次

指数の基準時は平成12年(2000年)である。したがって、指数値は平成12年の平均を100.0とした比率で示されている。また、ウェイトも平成12年の産業構造により作成されている。平成12年基準は、平成15年9月19日公表、同年7月分指数から適用し、平成10年(1998年)まで遡及計算を行っている。

3 分類

分類は、日本標準産業中分類(若干の組み替えを行っている)に準拠した「業種分類」と、品目の経済的用途に着目した「特殊分類(財別)」の2つの分類による。

4 指数の種類及び採用品目数

	採用品目数				ウェイト算定基準
	計	製造工業	鋳業	電力・ガス事業	
生産指数	209	206	1	2	付加価値額
生産者製品在庫指数	147	146	0	1	在庫額

- ・生産指数(付加価値額ウェイト) 生産活動の生産水準の動き
- ・生産者製品在庫指数 生産製品が出荷されずに生産者段階に残っている在庫の動き
受注生産等で在庫を把握する必要がないものや、在庫の把握が極めて困難で数値が得られない品目があるため、生産者製品在庫指数の採用品目数は、生産指数より少ない。特殊分類は、財用途が2財にわたる(4品目)ものはウェイトを分割して各財毎に集計しているため、業種分類と特殊分類では採用品目数が一致していない。また、採用単位は、製品数量単位及び製品固有単位を基本としている。

5 総合指数の算式

総合指数の算式は、品目別指数を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均法(ラスパイレス算式)による。具体的には次のとおり。

$$I_t = \frac{\sum P_{io} Q_{it}}{\sum P_{io} Q_{io}} = \sum \frac{P_{io} Q_{io}}{\sum P_{io} Q_{io}} \times \left[\frac{Q_{it}}{Q_{io}} \right] = \sum \frac{W_{io}}{\sum W_{io}} \times \left[\frac{Q_{it}}{Q_{io}} \right]$$

I_t ...t時点の総合指数

P_{io} ...品目別平成12年平均単価(生産指数は品目別平成12年平均付加価値単価)

Q_{io} ...品目別平成12年1ヶ月平均数量(基準数量)

Q_{it} ...品目別比較時数量

W_{io} ...品目別平成12年ウェイト(ウェイトは鋳工業に対する万分比)

6 季節調整方法

センサス局法(X-12-ARIMA)を採用

季節調整済指数 = 原指数 ÷ (季節指数 × 曜日・祝祭日指数)

平成18年1月以降の季節指数は、平成17年の季節指数を適用している。

7 その他

本書記載の数値を転載するときは、「富山県鋳工業生産の動き」による旨を明記してください。

この月報の前月公表値が修正報告により若干変更されている場合があります。

内容についてのお問い合わせは、下記あてにお願いします。

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
富山県 経営管理部 統計調査課 商工係
Tel:076-444-3193(直通)